



平成 30 年 12 月 9 日

上映会「パレードへようこそ」及びアフタートークを実施しました

平成 30 年 12 月 9 日、万代市民会館 6 階ホールで上映会「パレードへようこそ」と、新潟大学法学部教授の田巻帝子さんによるアフタートーク「シンプルな、でも切実な『unite 団結』というメッセージ」を開催しました。

田巻さんは法と社会の関わり合いを探究する「法社会学」がご専門で、特に「家族」をテーマとして、英国法との比較やジェンダー視点からの研究や教育を行っています。アフタートークでは、本映画が実話に基づくものであることから、1984 年の英国の時代



背景、「一つではない」英国の舞台（首都ロンドンとウェールズ地方の片田舎）、同性愛者に対する偏見や差別などについて詳しくお話しいただきました。

また、性的少数者の人権について、「LGBT」という少数者のみの名称ではなく「SOGI」（Sexual Orientation Gender Identity：性的指向・性自認）として、性愛の対象や方向性と、自分の性別や自分の性のあり方の自覚を総合的に表す言葉を解説いただきました。

映画「パレードへようこそ」

1984 年、サッチャー政権下のイギリスを舞台に、ストライキを敢行する炭鉱労働者と彼らを支援するゲイグループが理解しあい結束するまでを描いた映画。



NIIGATA CITY

【問い合わせ】新潟市男女共同参画課 電話：025（226）1061 メール：danjo@city.niigata.lg.jp

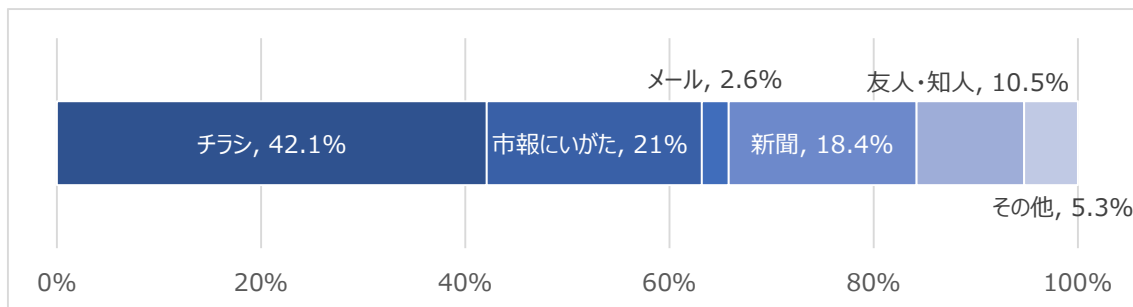
■6色レインボーは性的少数者の尊厳と社会活動の象徴…赤：生命、橙：癒し、黄：太陽、緑：自然、藍：調和、紫：精神

平成 30 年 12 月 9 日

上映会「パレードへようこそ」及びアフタートーク アンケート

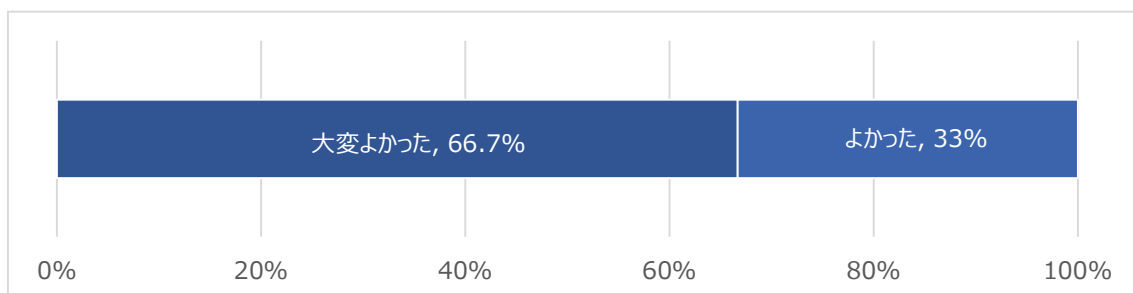
問 1 この講演会をどこでお知りになりましたか。

チラシ	16	42.1%
市報にいがた	8	21.1%
メール	1	2.6%
新聞	7	18.4%
友人・知人	4	10.5%
その他	2	5.3%



問 2 アフタートークはいかがでしたか。どのようにお感じになったかについても合わせてお聞かせください。

大変よかった	22	66.7%
よかった	11	33.3%
あまりよくなかった	0	0.0%
よくなかった	0	0.0%



- イギリスの国の成り立ちや、当時の政治状況を分かりやすく説明していただいた。「SOGI」という言葉を初めて知りました。誰もが認められる、認め合える良い言葉だと感じました。そもそも性的定義の必要のない社会になれることを願います。
- LGBTの問題だけでなく、ジェンダーについても考えさせられる映画でした。アフタートークでも、そのあたり話があり、よく理解できました。
- 映画の背景が分かり、理解が深まった。漠然と見るより良い。
- 大変分かりやすいお話でした。
- 映画も良かったです。映画についての解説もとても分かりやすかったです。
- すごく分かりやすかったです。この映画は2回目ですが、先生のお話を聞いて、さらに理解できました。
- 背景が分かり非常に良かったと思う。
- 解説で映画の理解をより深めることができた。とても良かった。
- 解説が分かりやすかった。
- 実話に基づいた話で、とても感動しました。
- 人の好みは十人十色、それぞれ違う。理解はできなくとも、批判するのは違うと思う。偏見や差別がなくなればよいなと思う。
- 詳しい解説が聞けて理解が深まった。
- とても分かりやすく、映画に対する理解も深まりました。
- イギリスの平等意識の強さに驚いた。日本とは全く違うと思った。法と国民の求めるものの繋がりがあり、2つが近い関係にあると思った。あまり政治に興味がないので、目を向けるようにしたい。
- 実話に基づくものということで、その社会的背景と内容が関連づけられて、大変理解に役立った。
- 分かりやすかった。イギリスの歴史概略良かった。東京でのLGBTのパレードも紹介してもらいたかった。質疑短い。役所的だ。
- 大変分かりやすかった。解説が先の方が良かったと思う。残念です。帰られる方が多かった事からも!アルザでも申し込み可能だと良かったのでは。
- 同じ社会の一員として繋がるメッセージを受け取り、人との繋がりが希薄になった現代に再び、より良い団結が広がるために行動を起こしたいと思いました。
- 映画の背景（時代背景、LGBT）の解説が分かりやすく良かった。また LGBT そのものへの説明もよく理解できた。

- 非常にコンパクトにまとめていただき、理解しやすかった。
- どんな性でもプライドを持つ PRIDE。たまたま労働争議と LGBT が結びついた好事例。
- とても分かりやすく良かったです。
- とても分かりやすく解説されて、より理解が深まった。
- 「差別に対する意識が変わらないのは何故か」ということが、いつも気になっています。今回の映画でそれを少しだけ気づかされたのですが、対話する時間が大切かと思ってます。
- 時代背景を理解することができた。
- 短く限られた時間だったが、分かりやすい話だった。もっとたくさん聞いてみたいと思った。時間の制約があったためか、先生が少し早口で話され、理解する間もなく、先に進んだ事があり少し残念だった。
- 映画の時代背景について、詳しい解説をしていただき、理解が深まった。「SOGI」は初めて知った。自分の性にプライドを持つという言葉によく主旨が表れている。映画はボリュームがもっと大きい方がよかった。(迫力が勿体ない。)
- 映画のバックグラウンドがよく分かったので分かりました。
- 今回の田巻さんの「連帯 unite」は映画解説にぴったりです。アルザ情報図書の本の紹介も(女性の)労働問題について、紹介があると良かったです。田巻さんと同じくアルザが、この映画を選んで上映したことに敬意を表します。
- ゲイ・レズビアンという隔たりがなくなってきた。ゲイに対しても映画の中で、いろいろな考えの人たちがいることは今も同じ。

問3 性的マイノリティについて、市民の理解を深めるにはどのようなことが必要だと考えますか。

- 現実に身近な社会に LGBT の方達が多くいることを、マスメディアを広く使って、知らしめるべきだと思います。「市報にいがた」等よりも、より目にする形で発信していければと思います。
- 今回のような上映会は良かったと思います。
- 性的マイノリティである人たちが、安心して集い、語り合える場所を作ること。その中から彼ら彼女らの体験していることを聴き取り、行政、教育、医療、保健などに活かしていくこと。
- 今回のようなことが、またあると嬉しいです。
- 今回のような会が頻繁に行われると良い。
- このような会を続けることが大切だと思います。ただ、人が生まれたその瞬間から男、女の区別が日本にあるので、そこを変えないと、ずっと続くテーマになるんだと思います。
- 普及活動、市民に向けた講演などをたくさんしていくべきだと思う。
- 「性的マイノリティ」だけではなく「フェミニズム」「ジェンダー」も、共に同時にやった方がいいと思います。
- 定期的な交流。
- 当事者や識者の話が聞ける講演会などの開催。
- 一人一人が相手のことを考え、行動する必要がある。市民に伝える講演や広報を行う。
- LGBT の方達との交流の場が必要。
- セミナーなどで、正確な知識の普及が、まず大切であると思います。特に小・中学生には基本的な知識だけでも伝えてほしいです。
- 性的マイノリティの人を知ることと、友人や家族を知ること、差がないと伝えることだと思います。自分と全く違う人、自分と遠い人としなくていいことが必要なのではと思います。
- 支援者が声を上げていて「回覧して」「つながる」ことも必要かと。
- 支援を待つのではなく、自分達から行動を起こすことが大事では！「ソジ」という言葉が広まるとよいのでは。
- 広報。幼児期からの教育。意識改革のための大人への教育。

- このような映画の上映とアフタートークは、一番分かりやすい企画だと思う。
- 数多くの講座や啓発活動が必要だと思います。
- この映画を各地で上映する。
- 市の施策として、マイノリティ支援の包括的推進が必要だと思います。具体的には「男女共同参画課」を「ダイバーシティ推進課」へ発展して、それぞれマイノリティコミュニティを団結させていくことで、より良い新潟市になると思います。（男女共同参画的にも win-win だと。）
- とても難しいが、このように映学会等、誰もが抵抗なくすんなり入っていける所から深めていくのが良いと思いました。私自身理解を以前より、より深めました。
- 教育と対話「SOGI」という言葉をもっと一般化させてほしい。世間のあり方について、マイノリティを蔑視する、我々の中にある差別意識をえぐり出すような姿勢が教育対話の根底においてほしいと思っています。
- 人をカテゴライズするのではなく、一人ひとりの生き方が尊重される、生きにくさが発生したときに相談先がある、サポート先が保障されるということが大事だと思います。
- 「教育」が大切だと思う。小学校・中学校から「違うこと」を認めるような、同じである事に安心しているような日常ではなく、答えが一つではない教育をしていくべき。
- SOGI city NIIGATA として、誰もが等しく自由に生きる権利があることをメッセージする。（一つのものさしで人を差別しない。）企業での取り組みをバックアップする（認定マーク）
- 分けるのは便利とは思うが、実際はグラデーションであることを、学校教育で若い人からシェアしていく。
- 性的マイノリティの当事者の声とともに、性差別、人権の問題全体に広げることが、より広範囲な「私にも分かる」「私の問題」という気づきに繋がります。そこを繋げられるのがアルザの役割なので期待しています。
- このような映画の上映会は大変よかった。一般にもっと周知されていればさらに良かった。HIV も含めて子供たち世代からの教育が必要と思われまます。

問 4 性的マイノリティをテーマに、今後聞いてみたい内容や講師名があればお書きください。

- 日本における同性カップルの法的な権利がどうなっているか、カップルはどう対応してるのか？
- もっと田巻先生のお話を聞きたいです。
- とても聞きやすかったので、田巻先生にテーマを変えて、講演していただきたい。
- マイノリティの方々の生の声や悩み相談などの内容と、それに対する相談員、専門員の対応実例などを紹介する会はいかがか。
- 現在シネ・ウインドで上映が始まった、弁護士男性同士のカップルのドキュメンタリーなどは面白いのではないのでしょうか。タイトル「愛と法」
- 今回のように関連する“問い”となる映画を上映するのはとても良いと思う。
- 生物学的な切り口の人間、性的マイノリティについて 長谷川真理子さん
- 今日の映画がジェンダー（性的マイノリティ）だけがテーマではないので、労働問題（格差社会）→「クラス」についても目を向けることが大切だと思う。よい映画なので、視野を広げていただけると更に良いと思いました。田巻さんはその専門家でもあると思うので、今日の講演会の「unite」はぴったりのテーマで良かったです。

問 5 差支えなければ年代をお聞かせください。

10代	1	2.8%
20代	2	5.6%
30代	3	8.3%
40代	4	11.1%
50代	10	27.8%
60代以降	16	44.4%

